

第19回 地域医療貢献奨励賞 受賞者（2025年度）

<敬称略>

<p>佐々木 暢彦 (ささき のぶひこ)</p>	<p>北海道 町立厚岸病院[院長]</p>
<p>昭和55年自治医科大学卒。道内のへき地勤務後は自治医科大学とその派遣先病院等で勤務。平成15年に帰道した後、厚岸郡唯一の病院で、近隣の浜中町と釧路町の一部をカバーするこの地域の中核的な医療機関である町立厚岸病院院長へ町の求めに応じる形で平成18年に着任。以来19年にわたり町の医療確保・充実に尽力。</p> <p>小児科専門医という立場から、平成18年の同院赴任と同時に小児科診療を常設で再開。かかりつけ医を中心とする小児科、内科、外科の総合診療をベースに、整形外科、脳神経外科を加えた5科での診療と、二次救急も引き受ける診療体制で地域に必要な不可欠な医療を提供している。</p> <p>また患者の立場で説明と対話を大切にする治療方針から、優しく患者の子供に語りかけ診察する姿勢で家族構成や生活環境まで目配りするプライマリ・ケアを実践。地域に根ざして健康増進や疾病予防に貢献する姿への地域住民の信頼は絶大。</p> <p>さらにへき地医療を志す研修医を多数受け入れ後進医師の指導・育成にも尽力され、北海道の地域医療を牽引してきた第一人者として地域医療への貢献は絶大。</p>	
<p>渡邊 孝弘 (わたなべ たかひろ)</p>	<p>山形県 戸沢村中央診療所[医師]</p>
<p>昭和 55 年福島県立医科大学卒。山形県立新庄病院勤務を経て、戸沢村中央診療所には平成元年の開所から勤務。以来、36年の長きにわたり、主に高齢者・在宅医療の分野で住民の命と健康を守るため、高齢化や冬季間の豪雪により来院困難な住民に対して在宅診療を行うとともに、村内の介護施設や知的障がい者更生施設を訪問して診療を続けている。</p> <p>また令和6年7月豪雨の際、停電で診療所が孤立した中でも避難住民に対して迅速かつ的確に薬の処方を行うなど、健康状態の維持に貢献。避難者1人ひとりに寄り添った対応は地域の人々に深い安心感を与え、大きな感謝の声が寄せられた。</p> <p>加えて、高齢化率が高く交通手段が脆弱なため来院困難な患者が多いという戸沢村の特性や在宅医療のニーズを踏まえて、災害発生時に高齢者や障がい者の福祉避難所と村内医療機関を結ぶオンライン診療のモデル事業が2025年7月に開始。医療の空白を生まない診療提供体制の構築を図るなど、地域医療への貢献が顕著。</p>	
<p>三ツ木 禎尚 (みつぎ よしなお)</p>	<p>群馬県 西吾妻福祉病院[管理者（兼）院長]</p>
<p>平成3年自治医科大学卒。平成9年から東村(現：東吾妻町)国民健康保険診療所、平成15年からへき地医療拠点病院でもある西吾妻福祉病院で勤務。平成19年には副院長、平成27年からは管理者兼病院長として活躍している。</p> <p>「困っている人の役に立ちたい」を信念とし、患者に寄り添う診療を心がけ、その温厚な人柄から地域住民からも愛される医師であり、地域医療全体を俯瞰できる広い視野を持ったリーダー的存在でもある。</p> <p>広域的なへき地医療支援事業の企画・調整、へき地医療対策に係る各種事業の円滑かつ効果的な実施を目的に設置された群馬県へき地医療支援機構の設立当初から、機構の担当医師として行政面の取り組みでも活躍。へき地医療対策部会では座長を務め、へき地診療所を抱える自治体への的確な助言等を通じて厚い信頼を得ている。</p> <p>医師の地域間偏在が顕著な県内で、長年へき地診療所、へき地医療拠点病院へ勤務しつつ、義務年限中の自治医科大学卒業医師へのきめ細かなサポートを通じて後進の育成にも尽力するなど、へき地医療の中心的役割を担ってきた功績は極めて大きい。</p>	

<p>土屋 典男 (つちや のりお)</p>	<p>静岡県 戸田診療所[管理者(兼)所長]</p>
<p>昭和 55 年自治医科大学卒。関係法令に基づき過疎地域として指定されてきた戸田地区唯一の診療所である戸田診療所へ平成 27 年 4 月に診療所長として着任。以降、施設併設の医師住宅に居住し、地域社会の一員として地域密着の診療を行っている。</p> <p>それまでの勤務病院で培った幅広い知識と豊富な経験を存分に発揮し、内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科など広範囲の初期診療を提供。また診療の合間には自ら車を運転して山間部や沿岸部の集落を巡りながら通院困難な高齢者などへの訪問診療を行うなど、優しさと公平さをもって地域医療を献身的に支えるだけでなく、定期的な内部研修会開催に加え、外部の研修会・講習会参加を推奨し、日頃から個々の能力と診療所全体の医療サービスの質向上にも尽力している。</p> <p>また行政、医療関係者及び住民と密接に連携し災害時の医療提供体制の構築・整備に邁進する姿へは行政・地域から厚い信頼が寄せられ、何より「戸田地区の住民の命を守る」という強い責任感と使命感からくる日々の惜しみない努力に代表される地域に根ざした真摯な活動は、地域社会全体の医療の充実に大きく寄与するとともに、多くの住民に信頼と安心を与え地域医療の理想像を体現するものであり貢献度は絶大。</p>	
<p>寒竹 一郎 (かんちく いちろう)</p>	<p>岡山県 鏡野町国民健康保険病院[院長]</p>
<p>昭和 58 年自治医科大学卒。高齢化率が県平均を大きく上回り、集落が点在する鏡野町内の中核的病院・へき地医療拠点病院である鏡野町国民健康保険病院に平成 10 年 6 月に院長として着任。同院に引き続き勤務するかたわら、同院の富診療所および上齋原診療所の所長として、地域住民へ医療を受ける機会を提供。地域の患者からの信頼も厚く、職員からの信望も絶大であったことから平成 31 年 4 月に院長に就任し、現在に至る。</p> <p>その間、無医地区に所在する富診療所、上齋原診療所での診療活動に加え、へき地診療所である奥津診療所への医師派遣による医療確保を実現。その後、継続が危ぶまれた時期にも強い意志をもって派遣継続に尽力し、へき地医療の確保に貢献した。</p> <p>また平成 10 年度からの中学校医や老人福祉施設の嘱託医、平成 12 年度からの複数事業所の産業医や介護認定審査委員、令和 5 年度からの苫田郡医師会副会長や警察協力医などを通じて、地域の保健衛生事業にも貢献。</p> <p>加えて後進医師の指導・育成にも熱心に取り組み、へき地医療の重要性を医学生へ伝えるなど、へき地医療・地域医療への貢献は極めて顕著である。</p>	
<p>前川 恭子 (まえかわ きょうこ)</p>	<p>山口県 萩市国民健康保険むつみ診療所[所長]</p>
<p>平成 4 年自治医科大学卒。平成 7 年より国民健康保険錦中央病院（現：岩国市立錦中央医院）でへき地勤務を開始し、国民健康保険むつみ診療所（現：萩市国民健康保険むつみ診療所）を含むへき地医療に従事。義務年限終了後も継続して現在に至るまで、萩市国民健康保険むつみ診療所に所属し、むつみ地区の地域医療を長年支えている。</p> <p>また、地域の医師不足が深刻化し、地域医療を支える医療人の育成がますます重要となってくる中、地域医療の実習など医学生や研修医の教育にも関わり、へき地医療を担う次世代の医師人材育成に携わるなど、学生や若手医師のロールモデルとして活躍している。</p> <p>さらには、山口県医師会常任理事として、へき地医療専門調査会における「第 8 次山口県保健医療計画（へき地医療）」の策定にも関わり、へき地医療における仕組みづくりにも貢献するなど、今後より一層の活躍が期待される。</p>	